



新潟市美術館

Niigata City Art Museum

交通アクセス

□バスで

「古町」から徒歩約10分

□タクシーで

新潟駅万代口から約10分

□自動車で

[1] 日本海東北自動車道新潟亀田I.C.を降り、
柳都大橋経由で約20分

[2] 国道8号線（新潟バイパス）紫竹山I.C.を降り、
柳都大橋経由で約15分（駐車場あり無料46台）

□新潟までのアクセス

東京駅→新潟駅（JR上越新幹線：約2時間）

大阪（伊丹）空港→新潟空港（飛行機：約1時間）

中部国際空港・名古屋（小牧）空港→新潟空港（飛行機：約1時間）

新潟空港から新潟駅まではバスをご利用ください。（約25分）



新潟市美術館
〒951-8556 新潟県新潟市中央区西大畑町5191-9
TEL 025-223-1622 / FAX 025-228-3051
メールアドレス museum@city.niigata.lg.jp
ホームページ <http://www.ncam.jp/>





目次	
新潟市美術館の概要	3
建築の概要	5
設備の概要	6
平面図	7
新潟市美術館の建築	8
新潟市美術館のロゴマーク	9
主な施設と活動	10
収集テーマ	12
組織及び分掌事務	14
利用案内	15

新潟市美術館の概要

設置目的

美術に関する市民の知識及び教養の向上に寄与することを目的とする。

運営方針

政令市にふさわしい、市民に開かれた個性あふれる美術館

1. 発見する美術館

「あるもの（館蔵品を含む地域の多様な文化資源・自然環境）」を活かし、
 新たな知を掘り起す、「発見する美術館」

新潟市美術館は、開館以来、近現代の優れた作品を収集・展示してきました。こうして培われたコレクションに加えて、新潟市は地域の多様な文化資源や豊かな自然環境に恵まれています。これら先人たちの遺産や自然の賜物である環境を常に意識し、「あるもの」を活かすとともに、埋もれている知を掘り起こし、光をあて、独自の発信をしていきます。「みる」ことを通じて、新たな価値を「発見する美術館」をめざします。

2. 学べる美術館

教育普及の事業を通じて、あらゆる世代の市民が「学べる美術館」

学校教育との連携を通じて、新潟の未来を担う子どもたちが美術に触れる機会を積極的に設け、想像力と感受性を養います。また、「つくる」ことを体験するワークショップ、美術について「語る」美術講座やギャラリートークなど、多彩な教育普及プログラムを通じて、「市民の学習の場」を一層充実させます。あらゆる世代の市民が美術を通じて世界と人間について「学べる美術館」をめざします。

3. 生きている美術館

さまざまな芸術が交差し、訪れるたびに心躍る「生きている美術館」

美術品を静かに鑑賞するだけでなく、音楽、ダンス、文学、映画、デザイン、ファッションなど、さまざまな芸術が交差し、アイデア豊かなイベントがにぎやかに繰り広げられる場。訪れるたびに心躍るなにかに出会える、そんないつも動いている、「生きている美術館」をつくりだします。

4. つながる美術館

市民同士、地域の文化施設相互が「つながる美術館」

美術館は市民のひとりひとりが未知の作品世界や作者と出会う場であると同時に、市民同士が出会い、交流する場でもあります。そうしたつながりは次々に外へ向かって広がっていくはずで。美術館は自らを外に開き、新潟市の他の文化施設、民間の諸機関とつながり、連携し、地域全体の文化振興に貢献していきます。

5. 信頼の美術館

高い質を保ち、市民が誇れる「信頼の美術館」

美術館にとってあたりまえのこと。市民の宝である収蔵品を安全に管理し、未来に伝えていくこと、展示室の環境を美術品にとって安定した良好な状態に保つこと、こうした美術館活動の根幹を成す業務を確実に遂行していきます。ハード、ソフト両面において、高い質を保ち、国内外から信頼され、市民が誇れる美術館を実現します。

沿革

1978年	9月	美術館建設期成同盟会市立美術館の建設について市長に陳情
1980年	4月	美術館建設計画検討委員会設置（美術関係有識者8人で構成）
1981年	2月	議会臨時会で建設用地取得について議決
	3月	建設用地取得（面積 9,725.19 m ² ）
1982年	3月	基本計画発表
	6月	美術館設計競技実施（指名競技方式 6社指名 審査員7人）
	9月	設計事務所決定 基本実施設計委託契約（株式会社前川建築設計事務所）
1983年	3月	基本実施設計完了
	7月	美術館本体工事着工
	10月	「美術館開設準備会議」「美術資料選定会議」を設置（準備会議委員12人、選定会議委員6人）
1984年	2月	教育委員会事務局社会教育課に「美術館開設準備室」を設置
	12月	本体工事竣工
1985年	3月	美術館条例制定
	4月	美術館条例施行
	10月	開館
1986年	3月	博物館登録（1999年3月 登録博物館廃止）
1992年	6月	常設展示室増築工事着工
1994年	3月	常設展示室増築工事竣工
2000年	3月	博物館相当施設指定
2004年	10月	展示照明・空調設備等改修工事着工
2005年	3月	展示照明・空調設備等改修工事竣工
2012年	3月	美術館ロゴ、シンボルマーク制定（デザイン：服部一成）
2014年	8月	大規模改修工事着工
2015年	3月	大規模改修工事竣工

受賞歴（施設・設備に関する賞）

1986年	5月	照明学会照明普及賞（社会法人照明学会照明普及会）
	11月	建築業協会賞受賞（社団法人建築業協会）

建築の概要

新潟の情緒を再現した“堀と柳”のある西大畑公園との調和の中で、市民に愛され、親しまれる美術館を目指し、開館当初のモットーである「みる、つくる、語る」の機能を実現できるよう設計されている。

所在地	新潟市中央区西大畑町5191番地9		
敷地面積	9,598.14m ²		
構造	鉄筋コンクリート造2階建		
建築面積	4,394.86m ²		
延床面積	5,550.70 m ²	1階面積 4,195.69m ²	2階面積 1,355.01m ²
設計	株式会社前川建築設計事務所		
工事期間	開設時建設工事	1983年 7月 ～ 1985年 3月	
	常設展示室増築工事	1992年 6月 ～ 1994年 3月	
	展示照明改修工事	2004年10月 ～ 2005年 3月	
	大規模改修工事	2014年 8月 ～ 2015年 3月	

□外部仕上げ

屋根	アスファルト防水断熱工法・押えコンクリート+ウレタン塗膜防水
外壁	せっ器質特製タイルブロック打込
建具	耐候性鋼材組立断熱仕様ペアガラスサッシュ、ウェザーコートプレバレン処理
外柵・門扉	耐候性鋼材組立、ウェザーコートプレバレン処理
建物周り舗石・舗床	せっ器質特製床タイル、レンガ系インターロッキングブロック

□内部仕上げ

部 門	室 名	床	壁	天 井
展示	常設展示室	カリンフローリング貼	人造木板、ガラスクロス貼	岩綿吸音板
	企画展示室	500角置敷カーペット	難燃合板、ガラスクロス貼	岩綿吸音板
	企画展示室前室	せっ器質特製タイル	プラスター塗EP	岩綿吸音板
教育普及・交流	市民ギャラリー	せっ器質特製タイル	難燃合板、ガラスクロス貼	岩綿吸音板
	講堂	リノリウム	カバ桜練付不燃合板	カバ桜練付不燃合板
	実習室	ビニールタイル	プラスター塗AEP	岩綿吸音板
	本のラウンジ	500角置敷カーペット	せっ器質特製タイル プラスター塗EP-G	岩綿吸音板
	ラウンジN	リノリウム	プラスター塗EP-G	岩綿吸音板
保存	収蔵庫	ならフローリング貼 荒床米杉相決り貼	米杉小巾板樋部倉矧	米杉小巾板相決り貼
休憩スペース	エントランスホール	せっ器質特製タイル	せっ器質特製タイル プラスター塗EP	岩綿吸音板
	常設展ロビー	せっ器質特製タイル	せっ器質特製タイル プラスター塗EP	岩綿吸音板
	休憩室	500角置敷カーペット	プラスター塗EP	岩綿吸音板
	喫茶室	せっ器質特製タイル	プラスター塗EP	岩綿吸音板

設備の概要

□機械設備

空調設備 温湿度条件

展示室・ガラス展示ケース

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
設定温度(°C)	20	20	20	21	22	23	25	26	25	23	21	20
設定湿度(%)	55											

収蔵庫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
設定温度(°C)	18	18	19	20	21	22	22	22	21	20	19	18
設定湿度(%)	55											

熱源機器 ガス焚二重効用型吸収式冷水発生機 100usRT×2基
 冷却塔(低騒音・耐塩仕様内部配管型) 100usRT×2基
 空調方式 定風量単一ダクト方式 展示室 3系統 その他 6系統

恒温恒湿パッケージ・ダクト併用方式 収蔵庫 2系統 ガラス展示ケース 2系統
 個別空冷ヒートポンプ方式 その他 3系統

換気設備 第1種(機械室、変電室等) 10系統

第3種(便所、実習室等) 11系統

排煙設備 機械排煙 一部自然排煙

給水設備 市水(飲料水、雑用水)

受水槽 FRP製1槽式 8m³×1基

雑用水槽 地下式RC造 18m³×1基

自動給水ポンプユニット 一般給水系統 1基 補給水系統 1基

給湯設備 局所給湯方式(小型電気温水器)

排水設備 合流式 汚水雑排水は屋内2系統で屋外にて合流し公共下水道へ放流

消火設備 屋内消火栓 8カ所

ハロゲン化物消火設備 収蔵庫、展示室、変電室、ガラス展示ケース他 計10区画

昇降機設備 身体障がい者用エレベーター(油圧式 11人乗用 30m/分) 1基

荷物用エレベーター(油圧式 2t 15m/分) 1基

テーブルリフター(2t) 1基

□電気設備

受変電設備 受電電圧 6.6kV

変圧器容量 3相 300kVA×1台 3相 200kVA×1台 3相 75kVA×1台 単相 100kVA×3台

蓄電池設備 密閉型蓄電池 50AH 54セル(非常用照明及び操作電源として)

発電機設備 ディーゼル機関 140ps 1,500rpm 発電機 100kVA 3相 200V

電灯設備 照明器具 ・企画展示室: 蛍光灯(Hf型 4000k)

・常設展示室(大・中展示室): LED(直管型 4000k)

・スポットライト: LED、ハロゲン

※上記器具は全て美術館仕様の調光可能型

・エントランスホール・常設展ロビー(中央): 電球色蛍光灯

・一般室: 蛍光灯(Hf型)、ダウンライト(LED)

放送設備 防災アンプ 160W

電気時計設備 水晶発振式親時計 2回線 子時計 14台

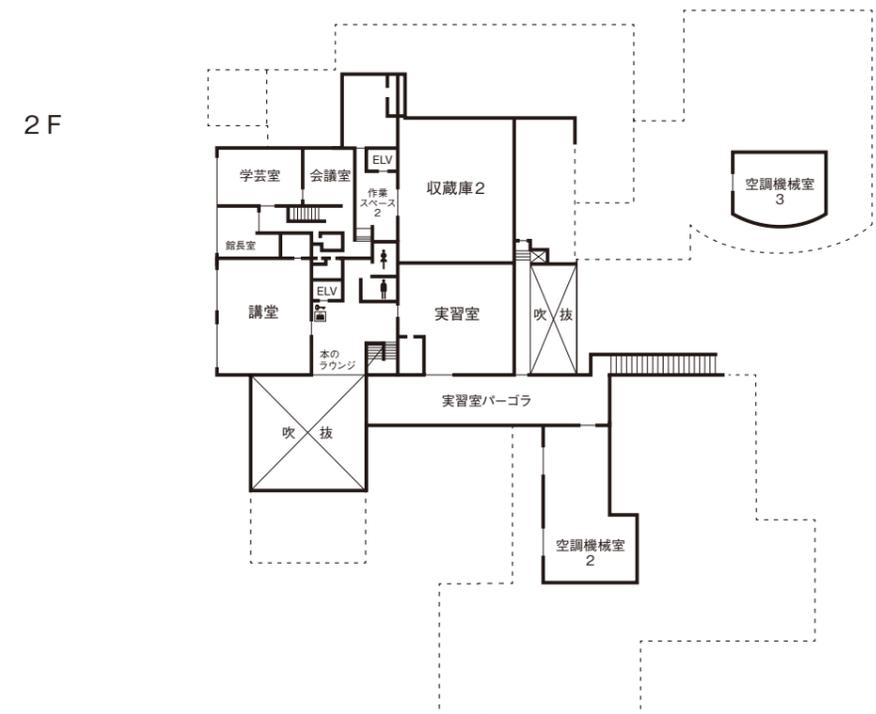
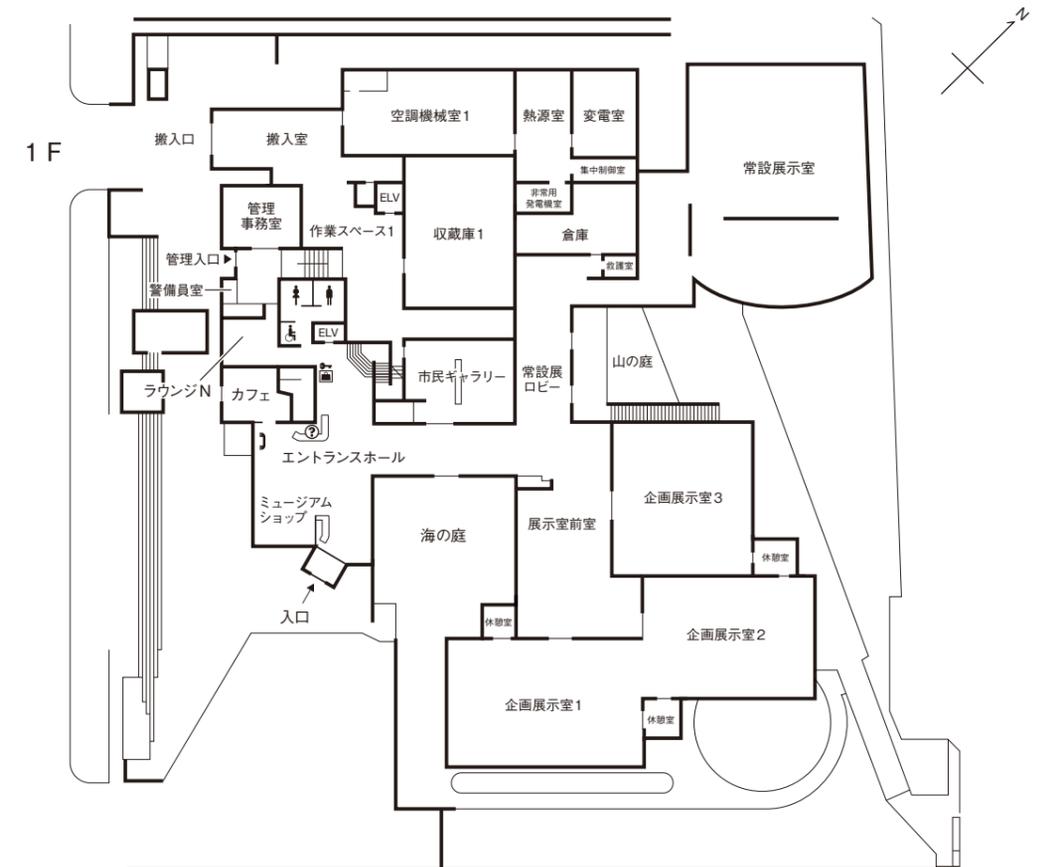
インターホン設備 相互式インターホン 24局

ITV設備 展示室、講堂等の状況をテレビカメラで管理事務室ならびに警備員室にて監視

モニタリングデータを24時間連続記録 約16日間保存可能

複合防災盤 P型1級 60回線

平面図





新潟市美術館の建築

美術館・博物館の設計に豊富な経験を持つ前川國男最晩年の設計である。

建物の特徴は、環境上の制約を活かすため、考え出された種々の工夫にある。寒冷な気候と強い風雪に耐えるよう、外壁には深い緑釉のタイルが独自の工法で打ち込まれている。砂丘地の高低差は緩やかなスロープとなって館内をめぐる、季節や時間により移ろう外光と風景が、動線上のガラス越しにのぞく。各所の素材、色、表面の仕上げや什器などに目を向ければ、細部まで一体的に計画されていることがわかる。それぞれの展示室は明快な位置関係にありながら、高さ・広さ・かたちを異とする個性を持つ。

美術館向かいの西大畑公園も、あわせて前川が手がけている。敷地中央に再現されているのは、柳のそよぐ掘割。新潟の街は、かつて水路が走る柳都であった。70年以上前に目にした生まれ故郷への郷愁が表れている。

前川が考えた「風土」が結晶化した建築である。

前川國男 まえかわ・くにお

1905年新潟市生まれ。東京帝国大学卒業後、近代建築の巨匠ル・コルビュジェ、アントニン・レーモンドに師事。1935年前川國男建築設計事務所を開設。戦後日本のモダニズム建築をけん引した。1986年歿。代表作に神奈川県立音楽堂・図書館（1954年）、東京文化会館（1961年）、東京都美術館（1975年）、熊本県立美術館（1977年）など。



新潟市美術館のロゴマーク

美術館を象徴するシンボルマークおよびロゴタイプは、2012年2月、全国公募による選考を行い、最優秀に輝いた服部一成のデザインを採用することに決定した。

シンボルマークは新潟市美術館の頭文字「N」をモチーフに、前川國男設計による美術館の四角い建築に光が射し込む姿を表し、色は、建物外観タイルの特徴的なオリーブ色を踏まえながら、生き生きとした美術館の活動の象徴となるよう、より鮮やかで現代的なグリーンとしている。和文ロゴは、小さな正方形の集合体からなり、落ち着いた雰囲気との調和をとりつつ、これからの美術館にふさわしい新鮮さ、ユニークさ、活発さ、軽快さをイメージ、対して欧文ロゴは、直線と円弧による簡潔な文字で、太く直線的な和文ロゴに対して細い円弧が響き合うよう設計されている。

2014年の施設改修に伴い、服部のディレクションにより館内のサインを刷新、重厚な建築に明快で軽やかな魅力を添えることとなった。

服部一成 はっとり・かずなり

1964年東京生まれ。1988年東京藝術大学卒。同年ライトパブリシティ入社。2001年よりフリーランスのアートディレクター、グラフィックデザイナーとして、広告、書籍、雑誌、パッケージ、CIなどを手がける。主な受賞に毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、東京ADC賞、東京TDCグランプリ、原弘賞。

主な施設と活動

□EXHIBITS

常設展示室

693.74m² (天井高：小展示室 3m、中展示室 4m、大展示室 5m)

独立して空調可能なガラス展示ケースを備える大展示室、カーブした壁面が特徴的な中展示室、落ち着いた小展示室からなり、所蔵品からテーマを設定し年に4回程度の展示を行っている。大展示室には10.3mの壁面ガラスケースを備える。無段階調光LED照明を採用。

企画展示室

展示室1 362.56 m² (天井高 4m)

展示室2 297.63 m² (天井高 4m)

展示室3 308.11 m² (天井高 5m)

前室 224.78 m²

多様な作品に対応し、可動展示パネルを備え、郷土の歴史に根差しつつ今日の視点からさまざまな展覧会を開催するほか、展示室内でのパフォーマンスやコンサートを行っている。展示室1には25.1mの壁面ガラスケースを設置。各室に「ランタン」と呼ばれる休憩室を備える。ハロン消火設備完備。

□EDUCATION

実習室 183.59m²

実際に手を動かして「つくる」ための専用スペースとして設計され、シンクや暗室、各種プレス機などを備える。実技講座、夏休み子ども講座を中心に、企画展に連動したワークショップなどを随時開催、アーティストとの交流の場としている。また、毎週金曜日は、市民の自主的な創作活動の場として無料開放としている。

講堂 145.81m²

展覧会に連動した講演会、学芸員による美術講座の開催など、美術について「語る」スペース。モニター・ホワイトボードなど多機能型ガラス黒板や、メモ台付きの椅子を備える。学校等の団体観覧の際のガイド等にも使用されている。そのほか市民の研究・発表の場としても利用可能(有料)。



常設展示室



企画展示室



講堂

□PUBLIC SPACES

市民ギャラリー 128.39 m² (控室 14.18 m²)

市民の創作活動の発表の場として貸出(有料)を行う展示スペース。専用の控室も完備。展示備品や照明器具などの貸出とともに、展示方法の相談にも応じている。

ラウンジ N

来館者が美術館にいる時間を楽しむためのフリースペース。軽い飲食も可。掲示板による情報発信のほか、気軽なワークショップなどのプログラムも開催。「N」は新潟市美術館、西大畑、記念樹のななかまどの頭文字であるだけでなく、使う人の数だけ、何通りもの使い方を発見してほしいという願いがこめられている。

本のラウンジ

2階からエントランスホールを見渡すフロアに設けられた、くつろぎのスペース。アート、デザイン、建築など、さまざまなジャンルにわたる美術書、展覧会カタログ、雑誌を閲覧できる。ラインナップはスタッフが厳選、随時入れ替えを行い、来館者に新たな発見の機会を提供する。

※エントランスホール、ラウンジN、本のラウンジではフリーWiFiを提供。

□PRESERVATION

収蔵庫 各室 249.83 m²

1階、2階にそれぞれ設けられた収蔵庫を作品の種類により使い分けている。1階には電動ラックを備え、平面作品をコンパクトかつ安全に収納。内装に米杉材を使用、24時間の空調管理を行い、温湿度管理を徹底している。いずれもハロン消火設備完備。

トラックヤードおよび作業スペース

4t(ロング)トラックをシャッター内に格納可能。電動昇降機(耐荷重2t)を備える。展示室までフラットに移動可能。収蔵庫前の作業スペースは空調可能となっている。またエリア全体をセキュリティゾーンとし、関係者以外は入室不可。



市民ギャラリー



ラウンジ N



本のラウンジ

□OTHERS

カフェ

外部に独立した出入口を持ち、ランチやティータイムを楽しむことができる。

ミュージアムショップ

展覧会図録やオリジナルグッズを扱う。エントランスに配置し、ショップだけの利用も可能となっている。

庭園

西大畑公園の水辺に、視覚的に連なる池を持つ「海の庭」、ブナ林の美しい「山の庭」は、館内を経由せずに自由に入出入りできる憩いのスペース。二つの庭をつなぐ園路にも野外彫刻が配され、四季を通じ散策を楽しむことができる。

収集テーマ

1. 新潟の昨日・今日・明日

新潟県内を広く郷土の対象とする。郷土出身および新潟にまつわる作家の作品。

小山正太郎、安宅安五郎、土田麦僊、矢部友衛、佐藤哲三、阿部展也、横山操、牛腸茂雄など。

2. 19～20世紀の美術

近代以降20世紀末までの美術の多様な展開をあとづけるにふさわしい国内外の作品。特に、海外の作家では、19世紀末の象徴主義から20世紀前半のシュルレアリスム、戦後のウィーン幻想派など、人間の内面をみつめる表現に力を注いでいる。

3. 21世紀の美術（国内中心）

国内作家を中心に、21世紀の新たな創造の可能性を示す優れた作品を対象とする。

主要作品

①オディロン・ルドン
Odilon REDON
《丸い光の中の子供》
L'Enfant dans la sphère de lumière
1900年頃

②ウジェーヌ・カリエール
Eugène CARRIÈRE
《母と子》
Mère et enfant
1899年頃

③ピエール・ボナール
Pierre BONNARD
《浴室の裸婦》
Femme penchée ou toilette
1907年

④オーギュスト・ロダン
François Auguste René RODIN
《死の顔・花子》
HANAKO, Masque de mort
1910年頃
撮影：宮原一夫



⑤パウル・クレー
Paul KLEE
《ブルンのモザイク》
Mosaik aus PRHUN
1931年

⑥横山操
YOKOYAMA Misao
《グランドキャニオン》
Grand Canyon
1961年
©Motoko Yokoyama 2015/JAA1500042

⑦佐藤哲三
SATO Tetsuzo
《原野》
A Wasteland
1951年

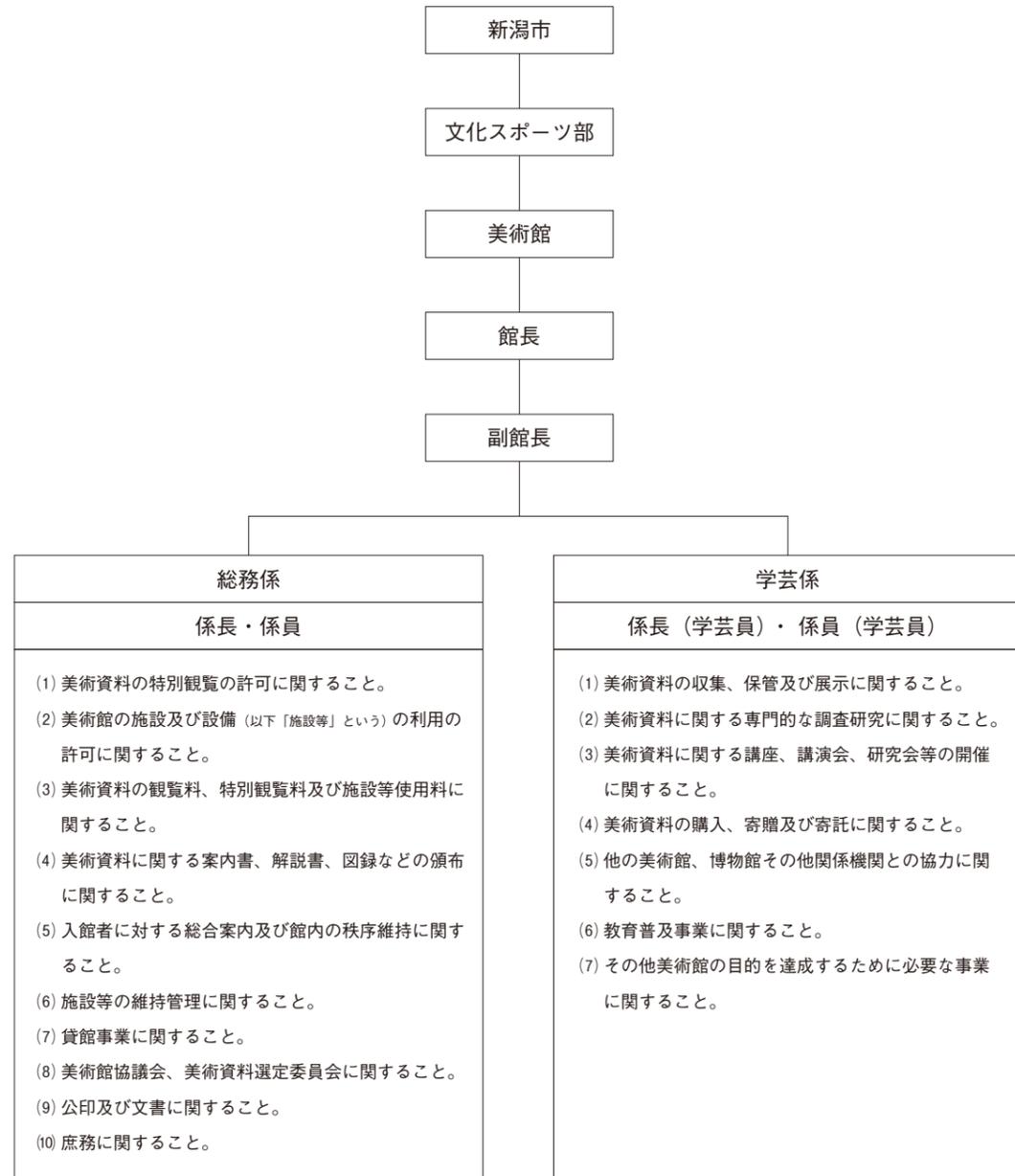
⑧阿部展也
ABE Nobuya
《R-32-ROMA》
1970年

⑨牛腸茂雄
GOCHO Shigeo
《幼年の「時間」》
The Childhood Series
制作年不詳

⑩草間彌生
KUSAMA Yayoi
《流星》
Shooting Stars
1992年
撮影：宮原一夫



組織及び分掌事務



関係附属機関

新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会

新潟市美術館及び新潟市新津美術館美術資料選定委員会

根拠条例

新潟市美術館条例（昭和60年3月29日制定 条例第4号）

新潟市美術館条例施行規則（平成11年4月1日制定 規則第33号）

利用案内

開館時間 午前9時30分～午後6時

休館日 月曜日（祝日または振替休日の場合は除く）

祝日または振替休日の翌日（日曜日にあたる場合は、火曜日）

年末年始（12月28日から翌年1月3日まで）

観覧料

区 分		観覧料（1人1回につき）（円）		
		個人	団体（20名以上）	市内定期観光バス利用の者
コレクション展 示観覧	一般	200	160	160
	大学生・高校生	150	110	110
	中学生・小学生	100	70	70
企画展示観覧	一般	一般企画展示観覧に係る実費を勘案してその都度市長が定める額		
	大学生・高校生			
	中学生・小学生			

※土・日・祝日は、小中学生無料 ※企画展開催中はその観覧券でコレクション展も観覧可能

特別観覧料

区 分		特別観覧料（円）	
撮影	カラー	1点 1回につき	3,000
	モノクロ		2,000
模写・模造			2,000
熟覧		500	

※表中の「1回」とは、撮影にあっては、同一美術資料について原板3枚以内をいう。

施設使用料

区 分	施設使用料（円）		
	1日 （午前9時30分～午後6時）	午前 （午前9時30分～正午）	午後 （午後1時～午後6時）
展示室1	30,000	10,000	20,000
展示室2	24,000	8,000	16,000
展示室3	25,000	8,300	16,700
市民ギャラリー	8,000	2,700	5,300
実習室	9,000	3,000	6,000
講堂	11,000	3,700	7,300

備考1 市民ギャラリー及び実習室は、入場無料を条件とし、作品などの販売行為は不可とする。

2 利用時間が表に定める利用時間に満たない場合でも、時間割計算は行わない。

3 利用期間中に、休館日がある場合は、休館日の日数分の使用料は徴収しない。ただし、休館日に搬入、飾りつけ、搬出などのために利用する場合は、有料となる。